

連帯、それとも搾取？

——ゲイ男性は「その他の」セクシュアルマイノリティをいかに表象してきたか——

日本学術振興会（東京大学） 森山至貴

1 問題設定

クィアという概念、あるいはクィア・スタディーズという研究領域は、それぞれのセクシュアルマイノリティの社会運動やそこから得られた知見の間の生産的な対話の可能性を模索する営みの拠点となるべきものである。しかしクィアをめぐる状況は、全てのセクシュアルマイノリティに等しく重点が置かれ配慮が行き届く形でなされてきたわけではない。同性愛者、特にゲイ男性の社会運動を起点にクィアの歴史を描く営み (Jagose 1996) (河口 2003) に対する批判や、近年のネオリベラリズムとゲイ男性の共犯関係の批判的検討 (Duggan 2003) (Whitehead 2012) を踏まえると、ゲイ男性によるクィアの占有とでも表現しうる事態を考える必要がある。

そこで本報告では、ゲイ男性自身が「その他の」セクシュアルマイノリティをどのように表象してきたのかを分析し、そこにある問題点を描き出し、その解決策の方向性について検討することを目指す。

2 分析の方法

とはいえ、ゲイ男性による「その他の」セクシュアルマイノリティの表象は多岐にわたり、そのすべてを検討することは不可能である。本報告では、クィア領域における生産的な対話のために、その表象の典型的な類型の問題点をいくつか明らかにする（網羅を意図しない）ことに作業課題を絞り、またゲイ男性がその中心となって問題化がおこなわれてきた以下のトピックに絞って検討する。

- (1) 男性間の性的欲望… (Bersani 1995) (伏見 2007) など
- (2) HIV・エイズ… 日本におけるエイズ予防法案への反対運動を中心に
- (3) 同性婚… (Chauncey 2005) (Whitehead 2012) など

実際の分析においては日本とのその他の地域の議論を分けて分析していく。

3 結果

分析の結果、自覚的であるか否かにかかわらず、ゲイ男性の運動や議論に他のセクシュアルマイノリティを包摂できるか、という問いの設定が多くの議論の根底にあることが明らかになった。ただし、いくつかの議論の中にはこのような問いの設定を乗り越える可能性を持ったものもあった。当日の報告においては、ゲイ男性による「その他の」セクシュアルマイノリティの表象の問題点とその解決策について、より具体的な論点に即して検討していく。

文献

Bersani, Leo, 1995, *Homos*, Cambridge: Harvard University Press.

Chauncey, George, 2005, *Why Marriage?: The History Shaping Today's Debate Over Gay Equality*, New York: Basic Books.

Duggan, Lisa, *The Twilight of Equality?: Neoliberalism, Cultural Politics, and the Attack on Democracy*, Boston, Beacon Press.

伏見憲明, 2007, 『欲望問題——人は差別をなくすためだけに生きるのではない』ポット出版.

Jagose, Annamarie, 1996, *Queer Theory: An Introduction*, New York: New York University Press.

河口和也, 2003, 『クィア・スタディーズ』岩波書店.

Whitehead, Jaye Cee, 2012, *The Nuptial Deal*, Chicago and London, University of Chicago Press.